



文政九丙戌七月上梓

涼、堂板

越後國頸城郡一本木ヨリ行程
江戸(六十五里)
善光寺(九里余)
高田(七里余) 柏崎(十九里)
今市(十里余)
立智(十里余)
糸魚川(二十里)
佐列小本(海陸卅五里)

霧の凝り
 世界より
 魚郊里

妙光山の元地獄谷温泉ありきと平泉へ出さんふとき人入るこけあし誰も志しを果せり
 百余年経たず今一時に我文化十三丙子の春何事ぞ七人極志と栄一力を合してえや越の源流をふ
 る深山いたと入て當るめがげや年乃長月よりむ新やを系の一木のわくわくはるらん人ま
 人ま切のいとも速なりと温泉のきよみはなやうなるをほ免ぬちりき斯く又のとけそこのところと
 此よりこれハ痛人々はやすぬ人もむれきてこやつさくくこゝ又赤会山の峯は是初めと文政戊寅年
 七月廿四日えん並へて柳かゝ大切の僅くことと
 いづれそそのひさびさむと我
 君の石の下を憐しみおかしん心をものあつて
 そあつてそれいづれ浴する人ハ我
 君のかげんあつてのあとあつてあふを瘡咳症
 癰ハさうじ法病はなかりさうふ年の年ある或ハ
 瘡毒疥癬癩疾うらましきものもいえす
 いのちやあつて入てふ必ことあ
 え予今又改めて八月瘡族の爲
 こいついて初て温泉の能あるものと
 あまう又いづれ四方を眺むと
 一月百里より山海の佳景いづれも
 あつてやう瘡れを敬す此佳景多
 はんすり居るもの見え此下
 の紙にあらせておく
 と記す。あつて

妙光山
元地獄谷
平泉
赤会山
三ノ木
水田
井
池
湖
北平南正里
折廻三野二カ

一本木溫泉之記

0011842291